

大麦管理情報 (第8号)

令和6年4月15日

農業技術課 広域普及指導センター

1 気象経過 (図1)

(1) 3月：平年に比べ、平均気温は6.9℃（平年差±0.0℃）と並、降水量は224.0mm（平年比136%）と多かった。全天日射量は11.3MJ/mm/日（平年比94%）と少なかった。

(2) 4月上旬：平年に比べ、平均気温は11.3℃（平年差+1.0℃）と高く、降水量は124.5mm（平年比240%）とかなり多かった。全天日射量は15.3MJ/mm/日（平年比103%）と並であった。

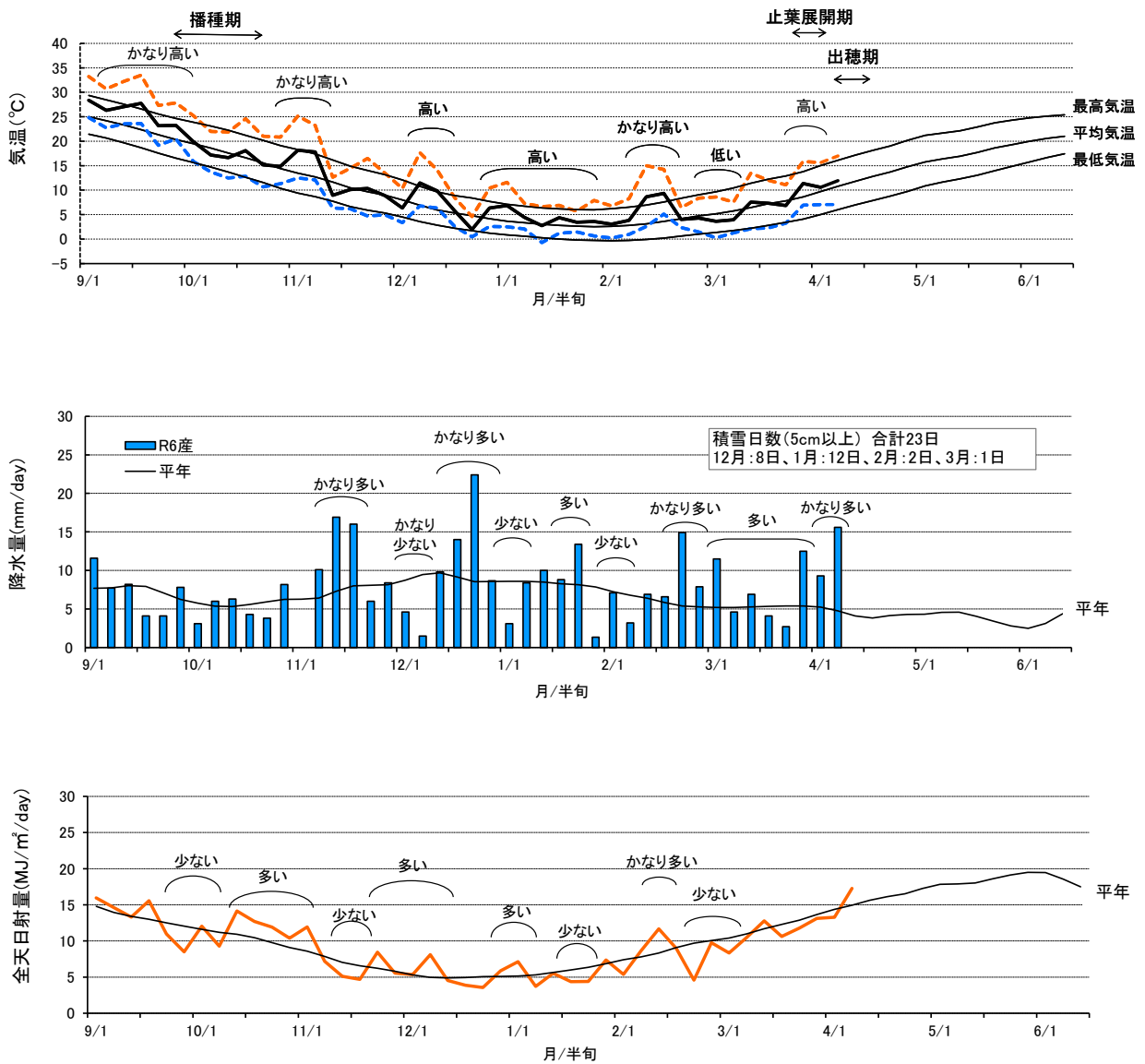


図1 令和6年産大麦生育期間の気象経過 (富山地方気象台)

2 生育概況

- (1) 平年と比べ、草丈は長く（平年比114%）、 m^2 当たり茎数は少なく（平年比86%）、葉色は濃くなっている（平年差+1.4）（表1、図2、3）。
- (2) 幼穂長は平年より長くなっている（平年差+0.4cm）（表1）。
- (3) 止葉展開期は4月2日、出穂期は4月12日と平年より4日早くなった（表2）。
- (4) 出穂期以降に近年並の気温で推移した場合、成熟期は5月28日頃（平年-3日）と見込まれる（表2）。

表1 大麦生育観測ほ等調査結果（4月15日）

（播種様式：ドリル）

年産	播種期 (月/日)	苗立数 (本/ m^2)	草丈 (cm)	茎数		葉齢 (葉)	葉色 (SPAD)	幼穂長 (cm)
				(本/株)	(本/ m^2)			
R6産	10/7	167	77.9	2.7	430	14.1	45.0	4.7
R5産	10/6	170	86.7	3.2	525	13.9	46.9	4.5
平年	10/5	174	68.3	2.9	501	13.6	43.6	4.3

注) 調査ほ場数：10、平年はH26～R5年産の平均

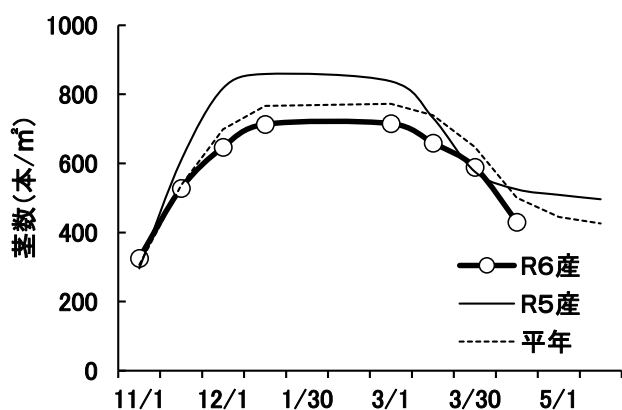


図2 茎数の推移

注) 平年はH26～R5産の平均

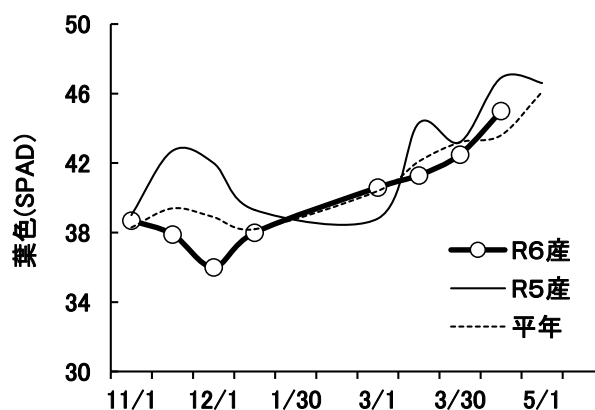


図3 葉色の推移

注) 平年はH26～R5産の平均

表2 生育ステージ及び成熟期見込み（4月15日現在）

年産	止葉展開期 (月/日)	出穂期 (月/日)	成熟期 (月/日)
R6産	4/2 (3/30～4/6)	4/12 (4/10～16)	5/28
R5産	3/28 (3/24～4/2)	4/9 (4/5～12)	5/27 (5/24～6/2)
平年	4/5	4/16	5/31

注1) 成熟期は、出穂期以降の気温が近年並（H26～R5）で推移した場合の予測日

注2) () 内は、調査結果の幅を示す。

注3) 平年はH26～R5産の平均

3 当面の技術対策

(1) 赤かび病防除の徹底

- ・ 検査規格における赤かび粒の混入限度は0.0%と厳しい基準となっているため、赤かび病の防除を徹底する。
- ・ 出穂期は、平年より早くなっていることから、必ずほ場ごとの出穂状況を確認し、遅れずに防除を行う。また、最も効果的な防除時期である穂揃期（開花始め：出穂3～5日後頃）とその7日後の2回防除を徹底する。
- ・ 防除適期に降雨が多い場合でも、適期防除を優先し、短い晴れ間を利用して、確実に実施する（図4）。
- ・ 防除効果は液剤の方が高いため、特に1回目の防除は、可能な限り液剤を使用し、規定量の薬剤が確実に付着するように散布する。
- ・ 防除効果を高め、かつ周辺作物や住宅地への飛散防止を図るため、風の弱い時間帯に散布する。
- ・ 無人航空機で防除する場合は、定められた飛行速度や高度等を守り、均一な散布に努める。

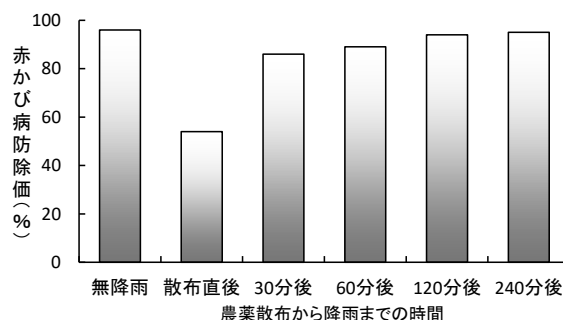


図4 農薬散布から降雨までの時間が防除効果に及ぼす影響

注) 防除薬剤：トップジンM水和剤
降雨は強い雨(25 mm/h)を2時間継続して実施
(農研機構 九州沖縄農業研究センター)

(2) 排水対策の徹底

用水路や隣接田から漏水がないように、水口や畦畔を点検するとともに、排水溝の手直しや、深く掘り下げた排水口への連結を徹底し、湿害を確実に回避する。

(3) カラスノエンドウ種子等の混入防止

- ・ カラスノエンドウの種子やハマダイコンの莢が大麦の収穫物に混入すると収穫後の選別が困難である。また、実需者からは異物混入防止の徹底が強く求められていることから、特にカラスノエンドウの種子等（粒径3mm程度）の混入防止に留意する（写真1、2）。
- ・ カラスノエンドウは、ほ場周辺からほ場に侵入するため、ほ場周辺で発生がみられたら、速やかに除去する。また、ほ場で発生がみられた場合は確実に抜き取る。



写真1 大麦に絡みつ়カラスノエンドウと種子



写真2 大麦ほ場畦畔に植生するハマダイコンと種子

(4) 適期刈取りに向けた準備の徹底

今後も気温が高いと予想され、成熟期が平年より早くなると見込まれることから、コンバインや乾燥調製施設の受入れ等の準備は早めに行う。